

二十三年度全国人権作文コンテスト県大会で、下諏訪町の中学校から、県最優秀賞一点と奨励賞二点、三名の生徒が入賞を果たしました。今号から、それらの作品を順次掲載いたします。

意識を変えて素晴らしい未来へ



下諏訪中学校 一年 両角 彩由季

「女性だから。ではなくて、女性でも。」

私の母は、消防団である。七年前に女性消防隊が発足し、当初からの団員の一人だ。女性消防隊ができて数年は、活動の幅も狭く、町の人にもなかなか浸透しなかったそうだ。それが今では、女性消防隊の活動の幅も広がり、みんなに知られ、認められるようになったきっかけが、最初の言葉にあるんだよ、と母が話してくれた。

女性消防隊が発足当時は、初めての活動ばかりでとまどいの

あると思う。でも、その意識を押しついたり思いこんだりしなければ、お互いに助け合って、いろいろな活動の可能性があるのでと思う。

ある中、目標と現実の狭間で、模索する日々が続いたそうだ。そして、男性団員には「女性団員だから」と気を使う部分があり、女性団員の意識の中にも、「女性団員だから」と思う部分があった。例えば、夜間の火災活動や行方不明者の捜索活動だ。「女性だから、夜間の活動は危険だ」「主婦だから、夜間、子どもをおいて出ていくのは大変だろう」という考え方だ。

もらえないと危機感をもった女性団員達は、女性消防隊としての活動を真剣に考えたそうだ。そして出した答えは、「夜間の活動でも、とにかく出勤する」「全ての活動を男性団員と同様にできなくても、女性でもできる活動を探してやる」「女性でも複数で行動することで、危険を減らして活動に当たる」ということになったそうだ。

り、面倒を見てくれたりする。訓練から帰ってくると母は、「ただいま。ありがとうございませう」と言い、父が「お疲れさん」と返している。そして、母は「私が消防活動ができるのは、父ちゃんのお陰なんだよ」と常々言っている。そんな父と母のやりとりを見ていると、お互いに感謝と思いやりをもっていることを感じる。また、父も消防団員であることから、母を一番理解し、支えている。そんな父が格好いいと思う。



さくら保育園で防災教室

人類が生まれた時から「性」が存在し、性が違うことによる区別や意識の差は、どうしても

子育てふれあいセンター ほけっと



玄関

玄関に入ると、何やら楽しい雰囲気！



おひさまひろば

子ども同士 母親同士 仲良く



乳児室

一緒に子育てを。相談にものってくれます



子育て支援室

0～2歳児用の絵本・育児書も、たくさん揃っています



ランチルーム

赤ちゃん用のベットも。小さい子を寝かしつけて、上の子どもと遊ぶこともできます

どなたでも、無料で利用できます。母親同士、子ども同士で交流できます。施設内は暖かく、木のぬくもりがいっぱいです。保育の専門家もいて、子育ての相談にものってもらえます！